



UNESCO HAMAMATSU

ユネスコ会員綱領

- 心の中に平和の守りを固めよう
- 教育・科学・文化の発展に努めよう
- すべての人間の尊厳を重んじよう
- 民族間の疑惑と不信をのぞこう
- 世界を友愛と信頼のきずなで結ぼう

No.184

2024.8.15

発行：浜松ユネスコ協会

発行人：会長 安藤隆敏

h_unesco_koho@yahoo.co.jp

編集(広報委員会)阿部行俊

2024年度 通常総会 開催

2024年6月1日(土) アクトシティ浜松研修交流センター

通常総会では、「2023年度事業及び決算の報告」「2024年度事業及び予算の提案」があり承認されました。議事後には、金子容子氏の講話が開催されました。

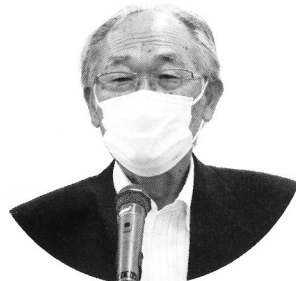
【会長挨拶】「社会生活を営む人が守り行う道」

浜松ユネスコ協会会長 安藤隆敏 氏

最近、これまで考えられてきた日本の良さとは全く逆の点が目立っているように感じます。政治家や投資家による資金集め。規制緩和と称して安全保障に経費をかけない機能性表示食品の設定。議論を経ないで防衛費の増額や軍事産業へのてこ入れ。平和憲法を守れない人が叫ぶ憲法改正。人の命を軽視する風潮。人としての倫理よりも金儲けと考えているのです。過去の総理大臣が強引に進めたことが、今、弊害として表れていると言われていました。

学校教育に教科としての道徳を強引に進めた人でもありました。しかし、道徳教育が速攻で必要なのは、子供ではなく大人の政治家でした。これは笑えない話です。全てにおいて優先されるのは倫理です。社会生活を営む人として守り行う道だと思います。この意味でユネスコ活動に賛同しているみなさんから改めて、その倫理の高さや心の清らかさを感じます。今後も、みなさんとの繋がりを大切にしていきたいと思えます。

(要旨抜粋)



【講 話】 楽しい英国人の暮らし方3選

— 環境・食・教育を題材に —

元静岡県教育委員長 現日本英文学会会員
金子容子 氏



英国人が誇るランドスケープ（国土景観）は、洋芝が植えられて一年中緑である。境界物は、木製品など自然の物を使用している。また、英国には地震がないため、建物を建てたら「一生・永遠」という考えがある。このような素晴らしい景観が世界各国から観光客を集め、大きな収益となっている。

しかし、かつては木がなく、花一輪もない荒野だった。そこから、こんな景観になったのは17・18世紀の大英帝国のころから取り組まれた市民活動である。それ以前は多くの民族が抗争を繰り返していた。

環境（イングリッシュガーデン）

19世紀の詩人ワーズワースの短い詩がある。「雲のように私は一人寂しく歩いていた。その時、忽然と群がる水仙が見えた。……」なぜ、水仙が忽然見えたのか？ それは、道が真っ直ぐではなかったからだ。「曲がる」ことで別の景色が見えたのだ。曲線がテーマとなっている。これは英国文化のテーマであり、もっと大きく言うと経験主義のテーマとなる。直線は人間が考えた合理的なものである。英国はやってみてから考える経験主義が好きである。経験に基づいて物事を考えて行くということである。道を曲がることで味わった感動の詩である。

感動は脳に良い。英国人は、日常生活の中で小さな感動に出会い、見つめることが好きである。日常生活の中での変化を自分たちで作りに上げる。植物と出会い、植物と人間が共感することは脳の活性化につながる。イングリッシュガーデンは、必ず曲がったところを作るというポリシーがある。単にきれいだけではない。人間を活性化するガーデンである。一瞬の凝視を通じて、集中力を養い、そして幸福感が積み重なるのである。

食

英国人はあまりグルメではない。食事の種類が少なく薄味である。食器もワンプレートのことが多い。食事よりアフタヌーンティーには重きをおいている。アフタヌーンティーには、次のような3つの効用がある。

午後4時くらいになると疲れを感じる。このとき、糖分を少し補給すると脳が活性化してやる気も湧いてくる。

コミュニケーションの場となる。本音と建前がないため、そこで話したことがプランニングとなってまとめ、積み上がっていくのである。

場を美しくするのである。気に入ったものを使ったり、自家製のものを置いたりすることで気持ちを明るくするのである。

教育

大学入学に対して、1年間の猶予がある。学生たちは世界各地に出かけて、経験や体験を積むことが多い。入学後の1年間は寮で生活する。学生寮は建物も食事も豪華でメイドもいる。メイドは質の高い教育を受けるために生活習慣の自律をうながしている。大学には、きちりとした教育を行い、国を背負っていく国民を輩出しなければいけないという使命感がある。

コミュニケーションの育成が国語教育の基本となっている。自分の思考を言語において発信できることが、教育の大きな目的の一つである。

- 1 私は賛成（反対）です。理由は～だからです。＜短くて良い＞
- 2 例えば、～ということがあります。
- 3 ですから、私は～に賛成（反対）です。

「環境・食・教育」は、人々の心を開放させ、ストレスの余りたまらない日常生活を構築していくと多くの英国人は考えている。そして、これらが幸福につながるのである。

（要旨抜粋）

2023年度 第9回科学教室

記念樹を植えよう 閉講式

「木の実を育てることで感じてほしい願い」

2024.2.24（土） 浜松科学館



数年前、記念樹の活動に参加した際、私自身もお土産に木の実をもらい、育ててみました。芽は出ましたが、実がなるまで育てることはできず枯れてしまいました。今までドングリなんて、落ちていても気に掛けたこともあまりありませんでした。しかし、1つの木の実ができるまで長い年月がかかり、それが木になってさらに新たな生命を生むのにはそれ以上の時間がかかることを実感しました。

こう考えると身の回りにある自然は、長い年月をかけて育まれたもので、それを大切に

していくということが当たり前のことであると分かります。環境を守ろう、自然を大切に、と言われる意味の1つを学べた気がします。

子供たちには、木の実を育てることを通して、育った喜びはもちろん、育たなかった際にも何か感じられるといいなと思います。

（鈴木葉月）

内科・消化器科

西脇医院 院長 西脇雅子

中央区和合町176-58 ☎ <053> 412-5355

2023年度 科学教室 閉講式

2024.2.24 (土) 浜松科学館

2023年度科学教室が閉講式を迎えました。閉講式では参加教室生59名一人一人に修了証書が渡されました。また、全活動に参加した教室生には記念として、「赤碧玉」の標本が贈られました。



2024年度 第1回科学教室

開講式・オリエンテーション

2024.4.29 (月) 地域情報センター

「仲間と学ぶ楽しさも味わおう」

創造都市・文化振興課 生涯学習担当課長
加藤元一 氏

この科学教室は38年目を迎える伝統ある教室です。受講生のみならずにはこの貴重な機会を生かして積極的に学んでほしいと願っています。この教室では身の回りの自然や科学の幅広い分野が取り上げられ、楽しく魅力的な体験活動が予定されています。「面白いな。不思議だな。」と感じたことについて学習を深めください。また、自然の不思議さや美しさに触れる中で、多くの仲間と学ぶ楽しさも味わってほしいと思います。



この教室の名前となっているユネスコは第二次世界大戦の反省のもとに生まれた国際連合の国際組織です。教育科学文化の振興を通して人の心に平和の砦を築くということを理念に掲げています。この教室を通して、「人や自然を大切に作る心」「平和の世界につながる科学する心」がみなさんの中に築かれることを期待しています。
(要旨抜粋)

「世界の平和という大きな視点を持って学ぶ」

浜松ユネスコ協会会長 安藤隆敏 氏

第二次世界大戦では8000～8500万人が犠牲になりました。これだけ多くの犠牲者がでたのは、人を殺す道具として科学を間違った方向に発展させたからに間違いありません。この反省から科学教育文化の発展を通して平和な社会を実現しようとするのがユネスコ運動です。ただ、その推進の難しさはウクライナやロシアによって示されています。中東でも危機が広がっています。

浜松ユネスコ協会は、1948年に民間ユネスコとして全国5番目に



誕生しました。浜松市の支援を受けて、特に力を入れてきたのが、この科学教室です。子供たちが科学に真正面から取り組んでいるユネスコ活動は世界でも例がないといわれています。昨年度までこの科学教室で学んだ子どもたちは4071人です。

科学教室最終に修了証書をお渡しします。そこにはみなさんに身に付けてもらいたいこと、つまり科学する心を4つの言葉で示しています。

1.素直な心の持ち主になること

五感を研ぎ澄ましユネスコの会員である自覚をもって行動してください。

2.疑問を追究する人になること

身の回りの様々な不思議を調べてください。

3.地球の自然を守る人になること

人間が表面上の便利さを求めるために地球は悲鳴を上げています。一度壊れた自然がもどるには数百年かかることもあります。2011年地震に伴う原子力発電所の事故をみればあきらかです。地球に優しいということは巡り巡って人間にも優しいということです。

4.世界の人々の平和を願う人になること

世界では食べ物が無いための飢え、薬がないための病気、戦争などのために多くの人が死んでしまっています。また、言葉の読み書きができないため貧しい生活を余儀なくされている多くの人がいます。一見平和な日本では想像がしにくいかもしれません。しかし、開発途上といわれている国では中学校に通えるのはおよそ50%です。

世界の平和という大きな視点を持って、一人ひとりが本物の学力を伸ばし、日々の生活を送れるようになってください。科学の究極の目的はここにあります。 (要旨抜粋)



<科学教室スタッフ>

西遠は「未来を拓く女性」を育てます。

伝統の中高一貫教育/地域唯一の女子教育/新しい課題探究型学習

入学相談は随時受け付けております。

パンフレットでは伝えられない学園の雰囲気を是非御覧ください。



静岡県西遠女子学園 中学校・高等学校

TEL:053-461-0374 WEB:www.seien.ed.jp

ISO9001/14001 [品質/環境]・ISO27001 [情報セキュリティ] 認証取得



中部印刷株式会社

本社・工場 TEL:053-441-2431(代) FAX:053-441-7612

<https://www.chu-bu.co.jp/>

第2回科学教室

チョウと植物 チョウの不思議 「生命の尊さを大切に考える大人に」

2024.5.11 (土) 浜松科学館



前半にチョウの基礎的な生態について学びました。後半は、実際にチョウを観察したり触れたりすることで興味や関心を深めることができました。

前半の講義で、チョウは種類によって産卵する植物の種類が決まっていることに興味をひかれていました。卵も様々な形があります。幼虫や蛹は、鳥の糞や食草に擬態したり、警戒色と言われる赤や

黄の色をまったりして、生きるために知恵を働かせていることも知りました。前のめりになりながら、スクリーンを見ている子やメモをとる子の姿が印象的でした。また、自然界では100個の卵があっても、成虫にまで成長できるのは1匹ほどであると聞いて、生命の尊さや自然界の厳しさを感じていました。

後半のチョウとの触れ合い活動では、ジャコウアゲハやアオスジアゲハ、カラスアゲハ、ナガサキアゲハなどを観察しました。アゲハチョウと言っても、多くの種類があり、色や大きさ、形などに違いがあることを初めて知った子も多く、目を輝かせながら気づいたことをメモしていました。また、チョウは極度の偏食であり、決まった植物を好んで食べることも学びました。チョウについての知識を深めることは、同時に植物を学ぶことにもつながると気付くことができました。

今回、チョウを学ぶ中で、生物たちが多くの知恵をこらしながら、力強く暮らしていることに気付き、生命の尊さを感じることができたと思います。いつまでも、生命の尊さを大切にできる素敵な大人になってほしいと願います。

(宮澤謙斗)



第3回科学教室

微生物とホタル 「微生物たちの動きに歓声」

2024.6.15 (土) 浜松科学館

微生物

多くの子供たちが自分で採集してきた水や、スタッフが用意したサンプルを観察し、水の中の小さな生物の多様な姿に感動していたことが印象的でした。

子供たちは大変関心が高く、近隣の池や浜名湖や佐鳴湖に赴き採集してきた水を持参した子もいました。顕微鏡に目を近づけると、ミドリムシ、ボルボックス、ミジンコなど微小な生き物が動いている様子が見えます。そのたびに歓声が上がっていました。ケンミジンコの抱卵の様子などの貴重な瞬間を目にすることもでき、子供たちはその感動を感想発表の中で語っていました。スタッフの先生方が持ち寄って準備された、一人一台の顕微鏡を使用してじっくりと観察できた成果です。

(鈴木謙誌)



ホタル

科学教室に向けてスタッフ数人とフィールドワークに出掛けました。辺りが暗くなった午後8時頃にホタルの探索を始めました。右手に補虫網、左手に水苔入の虫かごを持って進むと、ザーッと勢いよく流れる川の水音がしました。辺りは草木が茂っていて、自然豊かな場所です。

ふわっとした光が見えた瞬間、黄緑色の光は私の正面に移動してきました。ぼう．．ぼう．．と発光しながら、目の前を通り過ぎようとしたのは、体長15mmほどのゲンジボタルで

した。小さな体から放たれる黄緑色の強い光から、元気と力強さを感じました。

生き物たちがありのままの自然の中で過ごせる環境を、これからも残していく必要性を感じました。ユネスコの子供たちにも伝わっていたら幸いです。

(岡田佑季)



第1回 親子公園探検隊(初夏の自然 in 佐鳴湖公園) ～ 五感を使っておもしろさを味わう ～

2024.5.18 (土) 佐鳴湖公園

「親子で発見 初夏の自然」をテーマに、12家族36人の参加者と佐鳴湖公園を散策しました。五月晴れの中、植栽のツツジの花は終わり、タイサンボクの花芽はまだ固いので、やや彩りは寂しい感じでした。3グループに分かれ、いざ出発。

まずは、事前に準備した4種のアゲハの幼虫と食草の紹介をしました。食草の匂いを確かめながら、チョウの種類によってそれぞれ特徴のある草を好むことにびっくりしていました。探



検途中では、タブノキの若葉についているアオスジアゲハの卵を発見しました。

また、足元に目をやると、池の淵の植え込みでは、ヤゴから羽化してきたばかりのヤブヤンマがじっとしていました。太陽の光を受けてキラキラ輝くヤブヤンマの羽の美しさや体の大きさにうっとり。樹木に目を移すと、トベラやシャリンバイ、クスノキの花が咲いていました。花の香りをかいだり、葉の形や手触りなどを確かめたりしました。

イロハモミジには、双子の果実がたくさんついていました。果実は翼果で、秋に熟すと風を受けて回転しながら飛ばされることを紹介後、子供たちにも種飛ばしの挑戦をしてもらいました。さらに熱帯植物のアルソミトラの種についても提示し、発泡スチロールで作ったアルソミトラの種飛ばし遊びをしました。風に乗って優しく旋回する翼果の様子を再現することができました。

このように、ユネスコの親子公園探検では、自然の中の様々な生き物の営みに気付き、五感を使っておもしろさや不思議さを味わうことができるのではないかと思います。そして、親子で過ごすすてきな時間の一助になっていれればと願っています。(鳥井みのり)



あなたも一緒に 会員募集

問い合わせ・申し込み
事務局 三輪 宜弘
■ 053-425-8643

会員動向

会員数 (2024.8.5現在)

賛助	法人	維持	理事
31	0	3	37
普通	学生	合計	
28	0	99	



※再生紙を使用しています。